HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	戰爭と食糧
Author(s)	中島, 九郎
Citation	北海道帝國大學法經會法經會論叢, 11, 81-98
Issue Date	1945-02
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/10721
Type	departmental bulletin paper
File Information	11_p81-98.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

戰爭と食糧

中島九郎

前線銃後の差別なく、戰爭遂行上食糧が如何ほど大切なものであるかは、昔から人の能く知る所であるが、今私は銃後を護る我が國民生活に於て、食糧問題が聖戰完遂上に有する重要性や、問題の解決策などにつき、聊か卑見を述べて見たいと思ふ。我が國は古來久しく瑞穗國と呼びならされて來たもので、國民にして農業の惠澤に心から感謝せざる者は誰一人として無かつた。然るに最近支那事變勃發以來は果してどうであらうか。先づ昭和十三年は、內地はもとより、朝鮮も臺灣も米の豐作であつた。即ち內地に於ける米の供給總量は、鮮臺よりの移入額を加へ八千萬石に上り、食糧の點では、支那事變が縱へ如何に長引かうともビクともしない樣子に見えた。ところが翌十四年になると、朝鮮の大旱魃に見舞はれ、こゝに始めて我が國の食糧事情の上に容易ならぬ番狂はせを演じ、世人をして警戒せしめ、それ以來作戰規模の擴大に伴ひ、年々歲々食糧緊迫の度を高めて今日に至り、今や戰力の增強上より眺めるならば、食糧の增產は彼の航空機や船舶や兵器彈藥などの增產と同列の嚴たる地位に進出して來た許りでなく、或人にいはしむれば、却てそれ等をも凌駕せんとするほどの重要性を有つに至つたと唱へてゐる。

第一次歐洲戰爭の直後に、人口食糧問題が我が國に擡頭したことがあつたが、今日の食糧問題と較ぶれば、その峻烈さに於て複雜さに於て固より同日の論ではない。曩きの世界大戰に於て、大陸軍國獨逸が戰鬪には勝ちな

がら、脆くも遂に戰爭に敗けたのは、土俵際に於て食糧難に陷つたからだとは一般に信ぜられてゐたところで、獨逸が今次の對ソ開戰に際し、逸早く歐洲の穀倉（コルンカムマー）ウクライナを手中に收めたのも、前回の苦い經驗から出たものと判斷されたほどである。實に獨逸は前大戰に於て、百九十萬の兵士を失つたばかりでなく、戰時中食糧封寨より來る榮養不良のため、國民の間に七十六萬人の死亡者を出した。

我が國もこの生々しい前例を、而かも二十餘年前の今の盟邦に於て見出すのであるから――併し今度の獨逸は既にミュンヘン會議の頃から計畫を樹てゝ食糧政策に力瘤を入れてゐたので、目下の食糧事態は昨年の馬鈴薯凶作にも拘はらず安泰なものといはれる――食糧問題に關し一段の緊張を覺えざるを得ぬ。以下この食糧問題をば種々の面から眺めることにしよう。但し食糧の主たるものは、米だといふことは申すまでもない。

さて然らば、最近我が國にこの重大なる食糧難が襲ひかゝつて來た原因は抑々何であらうか。それには當然供給と需要との兩面が存在する。先づ米の供給を減少せしめた重大原因として外米の輸入杜絶を擧げねばならぬ。――前にも一言せる如く、內地外地を通じて米の收穫の上には、年により豐凶の變あることは勿論であるが、それは一時的周期的の原因でこゝには述べぬ――即ち昭和十九米穀年度（昨年十一月に始まり本年十月に終る）に及び、主として船腹の關係上外米の輸入を完全に遮斷するに至つた。それにより俄かに數百萬石といふ大きな穴があいた譯である。

以上は直接重要食糧そのものゝ供給を、外側から意識的に減少せしめた原因であるが、外に食糧の國內生產をば自然にジリジリと壓迫する所の重大原因で、今日我が國民が至大の關心を拂ひつゝある所のものがある。それは即ち勞力を始め肥料、資材など農業生產手段の缺乏問題に外ならぬ。只茲に注意すべきは、農業資材の中、民需品であると同時に重要軍需品たるものの存在だ。例へば硫安の如きは、銃後に在では農業上不可缺の重要肥料であるが、一旦戰場に出れば、忽ち爆藥の原料となつて縱橫無盡の活躍を遂げる。之は第一次大戰に於て、今日

の敵英國などにも同様に起つた民需軍需間に於ける微妙なる交錯關係で、一方の消費量が殖れば、他方がそれだけ壓迫を感ずる譯である。

次に米の需要の側から見る時は、

㈠人口の自然的增加より來る米消費量の增大。これは敢て說明するに及ぶまい。

㈡軍需米としての消費。之も明瞭なことであるが、他の一般食糧について見るも、軍需品として第一線に出動したものが、種類に於て數量に於て中々少くない。例へば鹽・砂糖・味噌・醬油・酒・ビール・梅干・ラツキヨウ漬・生姜漬・罐詰類等々の如きものだ。中でも罐詰類は、その或量が非常時防衞用として貯へられてゐる外は殆んど全部軍部に納まり、街頭に於ては最近その姿を見ることは出來ぬ。戰前輸出食品として大いに雄飛したるこの罐詰類は、開戰と共に重要軍需食糧として急角度の轉回をなすに至つた。

㈢防空非常時用備蓄食糧として、米麥を始め各種の罐詰類（鮭鱒蟹）や味噌・醬油・乳製品（煉乳粉乳）・梅干澤庵・鹽干魚類などといつたやうなものが多量に分散貯藏されたこと。（以上列擧品の內、罐詰類以下は中央食糧營團の責任保管に屬する）但し罐詰の備蓄については、一箇所に大量に纏め置くよりは、末端の各家庭に疎開させた方が、萬一の場合運搬や配給上の手數が省けるといふ利益はあるが、他面には食糧難のこの際、各家庭でどうかすると品物に指を染め易いといふ懸念がある。この點から最近に至るも尙ほ當局に於て、何れとも決し兼ねてゐる樣子である。

㈣戰局の進展に伴ひ、勞務動員計畫に基く勞務者の增加。これは職業轉換より來るもので、米增配の關係上自ら消費增を招來する。米の外一般食糧品、嗜好品についても、重點產業勞務者に對し、配給上質量とも特段の注意を拂ひつゝあることは今更いふまでもない。

以上は米を始め主要食糧に對する需要增加の有樣を概觀したものであるが、特に一言したきことがある。それ

は即ち軍需民需間の競合といふ大問題である。右の㈡に既に述べた所は軍需食糧のことで、それが前線と銃後とに數量が割れるとはいへ、何れにせよ食糧品たるの形は何等失はれるものではない。然るに本來は食糧でありながら、時に應じそれが形を變へ、或は用途を變へて重要軍需品として登場し、直接戰力の增强に役立ち得るものが存在することである。鹽・澱粉・甘藷・馬鈴薯・菜種油といつたやうなものがそれで、前述の硫安肥料の場合と類似の關係に立つてゐる。

右の如く需給の兩面から、國內一般に食糧難を迎ふるに至つたものであるが、玆に又皮肉な重大問題が發生した。それは外でもない、食糧の地方的偏在現象である。即ち都會では野菜飢饉に惱み拔いてゐる時に、程遠からぬ農村に在てはその捌け口に窮し、空しく腐敗に委ねようとする誠に矛盾極まる場面を露呈したことである。これは結局輸送の不圓滑が主因をなしたもので、所謂買出部隊の大出動となつて世間を騷がせるやうになり、東京では本年一月頃郊外電車の乘客の約一五—二〇%は實に買出部隊に依て占められる有樣であつた。昨夏以來全國特定の消費地域に對し、野菜枯れの時を見計ひ、豆腐・納豆・豆腐（不思議にも何れも原料は大豆）を配給して都市住民の蔬菜渴望を辛うじて幾分癒しつゝある。そんな次第で、大都市周邊の蔬菜供給圈創成のことについては、我が政府も最近漸く乘り出して來たやうだ。臺灣では明年度から主要都市の近傍に、野菜部落を設定して總計五千八百町步に上る蔬菜畑を營ませる計畫と傳へられる。（この最後のあたりの記事は、次に述べる食糧難克服策に屬するけれど）さて然らば、我が國はかゝる食糧難に對し、從來如何なる打開策を講じて來たであらうか。凡そ今日の食糧問題は生產・供出・運送・配給・消費及價格のそれぞれの場面を有する誠に複雜廣汎にして微妙なる問題であり、隨つて之れが對策も亦色々に岐れる。先づ最初に起つたのが、

第一　米價修正策（引上策）であらう。數年前政府は、玄米一石の價格を三十八圓より四十三圓に、一擧に五圓の大幅引上を斷行し、低物價政策の頗るやかましかつた當時、世人をあつといはせたものである。これは併し、

米の增產方策といはんよりは寧ろ、その頃生產費を割つてゐた水田農家の經濟を採算的ならしめるのが主眼であつたかと推量される。即ち諸物價に比べ割安であつた所の米價を引上げて他と釣合を取らせた譯だ。然るに最近の米價政策は、政府の聲明にもある通り、明らかに增產奬勵の相貌を現はすに至つた。即ち昨年四月政府は、昭和十八年產米の實質上の政府買入價格を石六十二圓五十錢(內譯をいへば、政府標準買入價格を今までより石三圓引上げて四十七圓とするの外、在來の一石五圓の奬勵金に、更に補給金十圓五十錢を加へ交付する)に高め、政府の賣渡價格は一石三圓引上げて四十六圓となし、かくて生產者に高く消費者に低い所謂二重價格制を採るに至つた。眞に劃期的の米價政策と謂はねばならぬ。この際政府は飽くまでも低物價政策の堅持を建前とし、隨つてこの米價引上に呼應して給與・賃金などの增額をなすが如きことなからしめ、又米作農家の貯蓄を特に勸奬して、努めて物價の惡循環を抑へ、そして生產者價格と消費者價格間の開き一石十六圓五十錢といふ莫大なる國庫補給を政府は敢行したのであつた。今次の米價政策に至つては單なる米價對策の域を超え、その主なる狙ひは高米價を通しての米の增產に向けられたことは申すまでもない。第一次大戰當時の、今日の敵アメリカについて見るに、その參戰の頃物價の騰貴は生產に對し多大の刺戟を與へ、一九一七—一八兩年に於ける農產物の增收は、價格の刺激(プライススチミュラス)と愛國心と、それと國家の努力と、この三者の綜合結果だといはれたほどである。

第二　消費規正。昭和十四年の秋、政府は米の搗精制限令を公布し、それまでの純白米の食用を差し止めることにした。次いで十六年には農林・厚生兩省合議の上、米の消費基準量を二合三勺と定め今日に及んでゐる。味噌・醬油の如き調味料は、從來地域的に消費量を異にしてゐたので、消費基準量を定める場合にも過去の實績を參酌し、例へば味噌なれば、多い地方の一人一日當り九匁から、少い地方の三匁三分といふ莫大な差を地域的に設けたが、米の場合には上の如く全國一律に二合三勺に基準を遵いた——但し年齡や勞働の輕重により甲乙のあることは當然だ——。更に昭和十七年十一月玄米食普及に關する閣議決定に基き、農商省では農務用米を玄米に限る

ことにしたが、家庭用米の方は強制まではしなかつた。斯樣に玄米食を廣く國民一般に對して斷行するに至らなかつた譯は、家畜の飼料として大切な糠の關係もあるからであらうし、米作農家の多くが今尙ほ自家保有米を白米として消費し、都會民を頻りに羨しがらせてゐるのもつまりは之がためで、必要から來た點も少くはないであらう。併し都會民のことを思へば、農民としても考へさせられる節もない譯ではあるまい。今春二月衆議院の或委員會の席上、農村事情に明るい農村歌人吉植代議士の口から、農民白米食排擊論が叫ばれたのも故あるかなである。因に人間と家畜とは、不思議にも同じ種類の食物を攝ることが稀ではない。糠の外にも例へば稗・玉蜀黍高粱・馬鈴薯などが數へられるし、又近頃食糧化を勸めようとしてゐる粃の如きも然りで、人畜食糧間の競爭の種を作つて居る。第一次大戰の頃、歐洲で豚が盛んに屠殺されて大いにその數を減じたことがあるのも、人畜競合上の犧牲である。

凡そ食糧の消費制限については、戰爭中は外國でも昔から同じやうなことを能くやつたもので、ナポレオン戰爭時代英國ではパンの中に小麥粉以外のものを混ぜ、又今回の大戰勃發以來歐洲交戰各國は何れも穀物の全粒粉を用ひ、遂に白パンは一變して黑パンとなつて仕舞つた。我が國でも最近小麥粉の步留を九三%に引上げた。凡そ戰時中の不作凶作は最も憂ふべきものである。之に善處するが爲には、豫め古來世界に於ける飢饉發生の事情竝にこれが對策の歷史に關し研究を進める必要があらう。

第三　食糧配給機構の整備。昭和十五年の秋以來政府は米の國家管理制度を實施し、農家の生產米は自家保有の分を除き他は全部政府に於て買取ることとなし、超えて十七年九月に中央食糧營團が設けられ、それから僅か數ケ月の間に全國都道府縣に地方食糧營團が生れ、米を始め主要食糧の配給機構の上に一應の完成を見るに至つた。

第四　食糧增產の奬勵。價格政策や消費政策に較ぶれば、食糧對策上一層根幹的と見らるべきこの食糧增產に對しては、奬勵の實施が遺憾ながら多少遲れたるやの觀なき能はずであらう——作物の割當生產制は開戰早々始つ

たのであるが、これは多くは既耕地の上に於ける作物種類の轉換に止まり、耕地總面積の上には左程の影響は見られぬ――昭和十六年に農地開發營團が生れて土地改良に手を着けたが、然し政府が增産運動上本腰を入れ始めたのは、昭和十八年の夏に百萬町歩の土地改良事業計畫を公表してからのことだと思ふ。それ以來暗渠排水や客土や小用排水などの如き農業土木事業を大規模に展開して今日に及んでゐる。食糧增産のためには農業者の生産意慾を物心兩面より高めることが必要であるが、最近政府に於て自作農創設報奬金制度を設け、地主の土地提供を容易にし、自作農の增殖を圖らうとするのももつまり右の目的に出たものである。

敵國アメリカに於ては、曩きの大戰當時參戰布告の後、僅か四ヶ月しか經たぬ一九一七年八月には早くも「穀物生産奬勵法」を公布し、農務省は農家に向つて穀物特に小麥の作付反別の擴張を熱心に勸告し、大なる効果を收めたのであつた。そしてこの增産奬勵に對しては、農務省は常に各地の農科大學と緊密なる連絡を取ることを忘れなかつた。今回も開戰と共に政府は農業增産に對する努力を續け、現に本年の作付面積は昨年のそれを凌ぐものといはれる。

第五　家庭菜園の擴張。最近都市に於ける蔬菜類の容易ならぬ缺乏に鑑み、政府は決戰非常措置の一環として宅地の徹底的利用を數へたほどで、そのため今春は各地とも家庭菜園が非常なる勢ひで盛んになり、（ところによれば市街道路の一部までも借りて耕す）熱鬧繁華な都會の中に靑々とした伸びやかな農村風景を描き出し、その栽培面積も、又それより擧げる園藝作物の數量も侮るべからざるもののやうである。又々アメリカの例を前の戰爭當時より引くならば、戰時菜園（War Garden）の新事業を促進させる目的で、非常食糧園委員會（National Emergency Food Garden Commission）なるものが設けられた位であり、この所謂戰時菜園よりの收穫物の總額は三億五千萬弗に達し、一人當り三弗半の計算となつてゐた。そしてこの戰時菜園の中には一百萬エーカー以上即ち四十萬町歩以上の市街宅地が含まれたのである。私は休戰後間もなく渡米したが、その頃太平洋沿岸の都會に於て個人の

庭の中に戰時菜園の名殘りを尙ほ眺めることが出來た。

又同じく前大戰の際、英國に於ける食糧增產戰爭（food production campaign）の一大目標は分貸地（allotment）の增加に置かれたのであるが、勞働者の餘暇を以て自家消費の野菜のために耕されるこの分貸地の數は、一九一七—一八年に於て五十三萬より一躍百四十萬に激增した。かくして餘剩勞力の利用により、而かも食糧が廣く國內各地に分散して生產される樣になつたがため、戰時下に見るやうな農村勞働力の一般的不足などは我關せず焉とすますことが出來、その上食糧農產物の各地間に於ける無駄な出荷、輸送の必要を減じ、鐵道の輸送力に餘裕を生ぜしめる結果となり、國家の時局的要請を滿たすことが出來た。そして分貸地の數が斯樣に殖えた許りでなく、各戶の庭園の內で草花の代りに野菜を植ゑ付けるやうになつたので、双方を合せると園藝的食糧の增產は一百萬トンを下らぬものといはれたのである。今述べたやうに、當時イギリスの分貸地が自給食糧生產の上に、且つ又鐵道の運送力緩和の上に發揮した大いなる貢獻は、移して以て今日の我が國家庭菜園の場合にも考へ得るであらう。

第六　戰時農業要員の指定。本年三月に農業生產統制令及同施行細則の一部が改正されたが、それにより戰時農業要員として指定を受くべき者は、三反步以上の農耕を營む經營主や、又その世帶員たる農業從事者で、一年間の農業勞働日數が九十日以上に及ぶ者である（外に農業指導員や農業技術員も含まれる）。そしてこの指定を受けたものは、原則として離農は許されず、又徵用からは免れ得る。之は食糧增產上に必要とする勞力をば、農村に確保せんがための强力な手段であつて、食糧自給態勢强化に關する國家の要請に應へしめんとするものである。盟邦ドイツでも昨年の初め以來勞務動員を一層强化したが、それでも農業要員制は嚴守してゐる。

第七　臨時農地等管理令の改正。政府は本年三月同勅令及同施行細則の一部を改正し、農地の生產力の低下を防ぎ土地利用の高度化を圖るがため、有効なる耕作が出來ぬやうな者の手に農地の所有權が移つたり、或は左樣な

者に耕作させたりすることのなき樣、農地の賣買貸借は凡て認可制に依らしめ、當事者間の自由取引を封じ、かくして農地の統制强化に依て食糧增產の實を擧げようとするものだ。

再び第一次歐洲戰爭當時の英國に例を取つて見よう。この國では一九一七年に公布されたる土地耕作令（Cultivation of Lands Order）により、農務局の有する權限の多くをば郡執行委員會（County Executive Committee）の手に委ねたのであるが、この委員會の主目標は、耕地の經營上農家を援助して必需食糧の極度の增產を圖らうとするにあつた。そしてこの委員會に委ねられた權限は實に强大なものであつて、國家に取りさうした方が一層有利だと認めた場合には、假令農家の私有地であらうとも、牧草地を耕起して畑地とすることをその農家に要求し、或は委員會が自分でその土地を引取つて耕すことが出來た。若しもその農家が委員會の要求に應じない時には罰金或は禁錮の刑に處せられた。尙ほ又委員會は耕作の行屆かぬ農場の全部若くは一部分を買取つて、委員會自らそれを耕すか、或は他人に耕作させる權能を有つてゐたのである。我が國に於ける如上改正法令の趣旨と比較せよ。

第八　學童給食、幼兒加配の實施。次代を擔ふべき乳幼兒や學童の榮養を佳くし體位の向上を圖ることは、姙產婦の健康保持の問題と相竝んで、國家百年の對策上決して看過を許さぬ大問題である。政府も最近玆に深く鑑みる所あり、今春來窮屈なる食糧の中から、六大都市に對し學童給食を始め、又廣く全國の三歲から六歲までの幼兒に對し、米の加配を斷行して溫い親心を示し、國民から深く感謝されてゐるがこれなども戰意の昂揚に資する所が蓋し尠くないであらう。殊に又學童給食は同時に戰時集團訓練に資するものと期待される。

第九　供出促進。先づ以て主要食糧の生產增强を圖るといふことは食糧問題の解決上第一義をなすものであるが、生產者と消費者間に、現存食糧をなるべく公平適正に配分することも亦頗る大切な事柄である。近來特にやかましい米の供出問題も實にここから發足する。昭和十八年度に於ける政府管理米の供出數量は、本年四月に發表さ

れたが、それによると三月末で以て供出米の割當額は全部出揃ひ、全國平均一〇〇%を超過するといふ（一〇〇・〇九%）好成績を示した。之れ偏に當局の熱誠と米作農家の愛國心との結合に基くもので、農家は自家保有米をも一部犧牲にしながら、都市の消費者のために供出を敢てしたものと思はれる。――滿洲國でも、昨年の糧穀收買成績は非常に良く、年末に於て既に豫定數量を超えるといふ勢ひであつた。豐作のためもあつたであらうが、同國民が我が國の食糧事情に寄せた深い同情の結果でもあらう――

更に本年度に入り、四月下旬閣議で內地に於ける米穀の增產供出奬勵に關する特別措置を決定し、次いで最近七月下旬の閣議で、それを朝鮮臺灣の外地へも及ぼすことに決定を見たのであるが、供出米の植付前割當と特別價格報奬制とは、その最も特徵を示す所の而かも思ひ切つた新施策と申さねばならぬ。即ち政府は大東亞戰爭の凄愴苛烈なる現段階に於ける、且つ又外米依存を全く一擲せる現下に於ける食糧の國內確保の重要性に顧み、米の供出に對しても在來のやうな生ぬるい態度を捨てて事前割當――災害の外は、收穫時に至り供出の減量は認められぬ――へと急轉回をなしたものである。それは即ち部落割當量以上に米を供出した部落に對しては、その成績が割當量の九〇%乃至一〇〇%の場合には、一石につき生產者へ四十圓、地主へ十五圓を奬勵金として與へ一〇〇%以上の場合には、生產者へ百圓、地主へ七十五圓を報奬金として與へることにした。かくして農家側の米の生產供出に對する熱意を一段と燃え上らせようとするものであり、彼の米の植付前に割當てるといふが如きは、一見無理な樣な觀があるけれども、それはつまり農家自身をしてなるべく多く米を節約させて鄕土食に移らせようとする深い意圖に出たものである。然し奬勵金報奬金制度には缺陷の存在も否定することは出來ぬ。

標題の項目とは一寸離れるけれど、鄕土食に觸れた序に一言述べたいことがある。日本內地の內、全く米の生產を見ないところは樺太である。平時に在ては數十萬の島民のために、米を島外より仰いでゐたものだが、戰爭の烈化に伴ひ米の輸送難に逢着し、ここに北方基地たる重大な使命を帶びる樺太に於て、鄕土食の研究實施は現

實の問題として、都道府縣とは比較にならぬほどの熱心さを以て、同地官民の間に取り上げられるに至つた。北方食パンや北方食粉の出現はその成果の一つである。之は今回の戰爭が國內の攝取食糧形式の上に大規模に及ぼしたる地方的影響として珍らしいものと謂はねばならぬ。

第十　生鮮食料品の集荷配給機構の整備强化。右に關する閣議の決定に基き、東京青果物統制株式會社竝に東京水產物統制株式會社が何れも本年七月一日同時に誕生し、その課せられたる目的達成に一路邁進することになつた。其他大阪・神戸・京都・名古屋の各大消費地にも、右生鮮食料品統制に關する兩種會社が既に創立を見、殘る北九州にも間近く出來上らうとしてゐる。島田農商相は生鮮食料品對策につき、在野當時から大いなる抱負を蓄へて居られたといはれる。

魚介類の不足は、蔬菜の場合と相竝んで戰時下の食生活上最も著しい現象であるが、この海產物の缺乏は食糧作物の時と同樣、勞力及び資材（燃料を含む）の拂底が大原因をなしてゐることに疑ひはないが、併し外に尙漁家に於ては時局柄主食の補ひに供する自家漁獲物の分量が殖えて來たことも關係が淺くないやうに見える。その邊の事情は先般中央食糧協力會の委囑により、當北大農業經濟學科教室が行つた北海道漁村地方に於ける鄕土食調査の上にも現はれてゐる。又全國的に見て、大消費都市に於ける今日の野菜難も同じ關係と思はれる。

以上我が國に於ける食糧問題の生成發展と、今日までのその解決策の梗概とを述べて來たのであるが、更に進んでこの重要問題の解決に對し、今後打つべき手は何んであらうか、少しく考へて見たいと思ふ。併し大體今までにいひ盡されてゐるので、別にこれはといつて目新らしい有力な方途も見出し兼ねる。我が國は遠き古へより農業が能く開け、今時分殘されてゐる可耕地といふものは割合に少い。彼の英國が第一次歐洲戰爭の最中、一九一七—一八の僅か兩年の間に時局の急に應じ、約三百萬エーカー即ち約百二十萬町歩といふ莫大な畑地をば國內で增加せしめ得たるが如き（牧草地の切替による）强き彈力性は之を我が國の農業方面に望むことはむづかしい

けれども、それでも尙ほ食糧の生産消費の方面に於て相當の潛勢力の伏在を認めることが出來る。創意工夫の餘地がまだまだ多分に存在する。

先づ外地をも加へ帝國內に於ける食糧の增殖を極度に圖ることが第一であらう。——併し船舶の需要激增のこの際、朝鮮臺灣よりの移入米に對しては、今後餘り多くの期待をかけ難くなるやも知れぬこと故、その點は內地側として充分覺悟を決めて居らねばなるまい——それには橫に平面的に新たに耕地を增加すると同時に、縱に立體的に在來の舊い土地の集約度を高めて反當收穫を上せねばならぬ。右の水平的開發と垂直的開發との双方の使命を同時に果し得る所の土地改良事業は、それ故に一層有望なものであるから、將來益々これを擴充すべきはいふまでもない。さりながら戰時下勞力資材拂底の惡條件に阻まれることを念頭に置き、最も効率的な方策を講ずるの必要がある。勞力に對しては今後とも援農部隊の出動により勞力不足も少なからず緩和されるであらうし、（第一次歐洲戰爭の最中、イギリス中央政府の食糧生產課（Food Production Department）により、一九一八年に援農勞働力として農村に繰出された數は、兵士七萬、俘虜三萬、農業勤報隊四千、國民學校兒童一萬五千と、その外に尙ほ婦人勞働隊の莫大なる數に上つた。兵隊の一時的歸農援助は注目に値するがアメリカでは現にやつてゐる。又最近獨逸でも敵國の捕虜を農村に使つてゐる。）肥料の不足（今次の獨逸の開戰以來我が國は加里の缺乏に惱んでゐるが、第一次大戰勃發と共にイギリスでも加里肥料は市場からその影を潛めた）に對しては自給肥料の增產や、燐酸資源の國內開發も——日本肥料會社に於て近頃これが調査を始めた。又最近北海道廳では經濟部の首腦者達が、或無人島の海鳥糞土の開發調査に出掛けて歸廳したばかりであるが、中央當局との折衝の結果が期待される。我が占領地域內の豐富な燐鑛石には輸送關係上今暫らくは當てにならぬ——大切だ。農業藥劑の方面では、新劑の發見施用（例へば植物ホルモン劑）はもとより、藥劑の不足に對しては、選種及作物管理の周密化を採るべきである。又農機具及び修理材料の入手難に對しては、今恰も對策運動が起りかけて來たやうであ

るが、農機具を愛護しその使用と修繕とに注意を加へて耐用年限の延長を圖ることが消極的方法としては極めて必要であらう。（野鍛冶の減少は農具の修理上困つたことだ。先きの大戰の頃にもイギリスに同じ現象が起つたものだ。）要するに今日は農業經營上技術指導の刷新充實を以て最大目標の一に數へねばならぬ。本年五月次官會議で決定されたる擧村精農作業實施要綱の中に現はれてゐるやうに、農家に對し技術指導を徹底させることは、食糧の增産確保に取り缺くべからざる事柄である。

又食糧作物の種類の中でも、時局の推移に應じ緊要度から眺めて、自ら甲乙の差が生ずるであらうから、縱ひ前陳の如く耕地の總面積の上にはさしたる變化はないとしても、適切なる生産統制を立て、內部に於ける作物の轉換を圖ることは有意義であらう。最近政府が主要食糧作物の種類を擴張し、同時に制限作物を縮少したのはその一例だ。即ち農商省では農地作付統制規則の改正により、從來は米・麥・甘藷・馬鈴薯・大豆の五種類だけが重要食糧作物として法令上特別の取扱を受け、作付面積を確保されて來たのであるが、このたび新たに玉蜀黍・粟・稗・黍・蕎麥・蜀黍・必需蔬菜をもその中に加へて指定することになつた。且つ又特用作物に對しても、食糧作物と同樣に指定制度を實施して、耕作者が勝手に他の作物に轉じ行くことを禁じた。その內調味用・嗜好用作物や、又は食糧生産に役立つ作物としては、菜種・薄荷・果樹・煙草・茶樹・綠肥用又は飼料用作物を數へることが出來る。之により從來は制限作物の取扱を受けてゐた薄荷や果樹や煙草や茶樹はその範圍から除かれ、米麥其他の主要食糧作物と同樣、現在の作付地に對し他種の作物の侵入を喰ひ止め得るやうになつた。そして同時に今後の制限作物としては花卉類は今まで通りとし、その外新たに食糧用園藝作物の側から、西瓜・甜瓜・草苺が加へられ、此等一群の農作物は今後はその栽培に對し大なる統制を蒙ることになつた。右に見ゆる如く、新たに重要蔬菜を保存作物の中に組入れたのは、要するに都市の近郊に於て、米麥などのため野菜畠が侵蝕されて野菜飢饉を起し、ビタミン缺乏の由々しき事態に陷るので綜合作付計畫に依てそれを防ぎ、兩者間に圓滿な調整を

取らせようとするもので、この點は農商省の西村新農政局長の農政方針の一つだともいはれてゐる。

イギリスに於ても先きの歐洲戰爭の頃、當局は食糧作物の栽培に向けんがために、ホップやカラシや、球根類花卉類などに對し作付面積の大削減を農家に命じたことがあつた。

國民に對し食糧の安定確保を圖るがためには、何んと申しても農業の基盤たる耕土の生産力の維持增進を以て恒久對策となさねばならぬ。この地力の向上發展のためには有畜農業を必要とすることはいふまでもない。そして有畜農業の本場としては、我田引水ではないが北海道を推さざるを得ぬ。最近有畜機械化農業の必要が本道關係有識者の人々により廣く呼びかけられたのも故あるかなである。この有畜農業の導入上、今日最大の隘路となつてゐるものは、自給飼料（購入飼料杜絶のこの際）の供給であるが、この隘路打開のため、最近農商省では放牧及び採草（野草は同時に堆肥の重要原料ともなる）の目的を以て、國有林野を解放する樣地方長官宛通牒を發した。これにより二千萬貫の飼料が得られる計算であるが、われわれはその實現を望んで止まぬものである。但しそれには又人手の關係がつき纏つて來る。

以上は我が國自體に於ける食糧增産についての觀察であるが、更に視野を廣くし日滿兩國を打つて一丸となしこの兩國を通じて食糧獨立の方策を講ずることが、將來に取りより一層大切な事柄ではあるまいか。昨年十二月閣議で決定されたる「日滿食糧自給に關する措置要綱」に基き、今春我が農商省内に日滿食糧協議會なるものが設置されたが、同會規程第一條に「日滿食糧協議會は内地、朝鮮、臺灣及滿洲國の各地域を通ずる食糧の確保を目途とし有機的なる連繫の下に生産計畫の樹立實施を圖ると共に一體的觀念の下に各地域の需給の調整を圖ることを以て目的とす」とある。

外米依存體制を全く拂拭し去れる今日、幸ひに右の日滿連繫の目的が完全に達成される曉には、我が國の食糧事情は一大安定を得るであらう。即ち滿洲から彼國の特産たる大豆や（滿洲の大豆作は今次の世界大戰開始以來

工産原料としての輸出減少のため惱んでゐた矢先、それを食糧として我が國に向けることは双方にとり有利なわけ）高粱・玉蜀黍・粟などを、又新たに北滿に水田を造成してその産米を我が國へ輸入を圖るのは、これは直接的の供給方法であるが、滿洲から粟を朝鮮に入れ、更に朝鮮からその代りに剩つた米を內地に移入するのは、間接的に我が國に滿洲から食糧を入れる譯になる。但しこの際餘りに滿洲との間に食糧依存の關係を深める時には自然滿洲より華北への輸出食糧（年々多量の高粱や玉蜀黍を送り出す）に累を及ぼすことになり、大陸共榮圈に屬する日滿支三國の緊密化のために取らざることであるから、この點は注意せねばならぬ。

以上は我が國在來の主要食糧の供給をば、如何にして更に一層增强せしむべきやの方策で、自然大規模のものであるが、次には未利用動植物資源の食糧化——內田前農商相の發案——を取上げる必要があらう。これはもともと落穗拾ひ式救荒式な比較的小規模のもので、可食性の山菜野草や木の實（樺太では同島特有のツンドラの食品化が以前試驗的に試みられたことがある）などの採集食用（粉狀にして他に混入）がこれに屬する。その或物は既に昔から用ひられてゐたもので、今後は一段とそれを進めて行かねばならぬ。又食糧の完全利用のためには原形食に代るべき粉食（食糧粉末をパンや團子に混入する、魚粉などは既に五六年前、今の北海道興農公社の前身たる酪聯で製造を始められて一時有名になつた彼の酪農パンの中に交つてゐた）、臟物食、生食、皮付食などに創意工夫を凝らすべきであらう。元來原始人は動物と同樣に、脂肪の少い筋肉よりは寧ろ脂ぎつた滋養に富める臟腑の部分を好むものであるが、われわれは大いに臟物食を奬勵して天物を無にせざる樣にしたいものだ。又魚類の臟腑からは醬油の製造が試みられたことがある。その他乾燥及び冷凍蔬菜や、鹽干燻製及び冷凍魚類、或は又冷凍肉や諸佃煮類の上にも一層の工夫を働かして、重要副食たる魚菜の保藏力の向上と時期的配給の圓滑とを圖らねばならぬ。又無頭魚は鮮度及輸送力の向上や、頭部の別途利用の諸點から見て今後奬むべきものであらう。

要するに食生活の巧妙なる敵前切替を斷行するだけの勇氣をお互に有たねばならぬ。又貯藏力を高めるために

は冷凍食品の製造を盛んにすることも必要だ。更に我が國現在の食生活に於ては、油の不足を痛切に感じられるので、脱臭による鯨油の食糧化は頗る望ましいし、又豆腐をつくる際大豆から油を搾つて食用又は工業用に廻しその搾粕から豆腐を造ることを今日相當にやり出したやうであるが、斯樣に一石二鳥式なやり方は今後益々奬めたい。又大豆を米に混炊の場合全粒のまゝよりも、脱脂大豆の形で混ぜた方が同じ意味から有利である。歐米はどこでもさうであるが、現下の獨逸などは特に食用油脂の補給に大童だ。獨逸の國民は今日食用油が少いとてこぼしてゐるが、それでも東京あたりに比べると、その配給量は實に二十倍以上に當るとのことである。

尙ほ酒造米は今までも次第に削減を加へられては來たが、更に一層の大制限を敢行し、酒の配給は軍用を除いては勞務者位ひに止め、その剩れる米を全部一般國民の食用に廻はすことにしたならば、時局の要請にふさはしいものかと思はれる。然るに他面に於ては、煙草の栽培をやめて米麥を作れとの極端な議論をなすものがある。出來得ればこの上もないことながら、喫煙の習慣牢固たる以上それはいふべくして行ひ難いことだ。

茶は今にも統制品になるかのやうな噂が最近頻りに巷間に立ち初めたが、當局の言明によると、茶については自由販賣を停止する意向はないものゝやうである。ベルリンでは現在コーヒーの特配をやつてゐるし、又敵國アメリカでもコーヒーや砂糖を今年六月から再び自由販賣品に移したほどであるから、せめては我が國でも歐米のコーヒーに當るお茶位は自由に飲ませて、窮窟な戰時食生活の裡に一片のゆとりを與へることは賢明な方法でもあらう。

病弱者の榮養食餌も決して輕んずる譯には行かぬが――鷄卵やバターは醫師の診斷書に依て配給される――殊に乳兒及び姙産婦の保健については、食糧方面から多大の注意を拂はねばならぬ。全國的なことではあらうが、札幌などでは今春來牛乳配給の統制を俄かに强化し、母乳不足の乳兒に對し殆んど排他的の優先配給をなすに至つたが之は甚だ喜ばしい事柄である。又姙産婦に對しても、能ふ限り食糧の數量品質の上に遺憾なきを期せねば

ならぬ。早速この秋から全國的にそれ等の婦人に大豆粉を配給するの計畫があると聞いてゐる、實現を祈るものだ。大豆は榮養分に富み且つ滿洲から多量の輸入を仰ぐことが出來る。

今や食糧の緊迫は交戰各國の何れに於ても免れ得ざる顯著な現象と化し、獨り我が國にのみ限られた譯では決してない。大東亞民族の解放を大目標とする聖戰に勝ち拔くためには、如何なる耐乏忍苦の生活をも、如何に長くとも敢て押し通すだけの牢固たる決心を吾々は凡て有たねばならぬ、又實際その決意を有つてゐないものは吾々同胞の中にたゞの一人もあり得ない。實に困苦缺乏の生活への抵抗力の强靱なことが、確かに今日我が國が敵米英に對して有する最大强味の一つである。今日我が國は砂糖無し日の連續であるが、今となつては別に苦痛とも何んとも思はぬ。又黑い米に慣れて來ては一向平氣で却て滋味をさへ感ずる程だ。混食も同じことだ。現下の食生活は頗る規則正しく過食の心配はあり得ないので、粗食ながらも胃腸病患者は戰爭の當初は却つて減じたとのことである。然しながら食生活の低級水準を永く續けそれに慣れ過ぎる結果、生活向上の意氣を將來沮喪せしむるが如きことなきやう嚴に警戒を要する。そして戰捷の曉には、人間の物質生活の三大要素たる衣食住のそのも心身に影響することの特に偉大なるこの食糧攝取の改善に努力し、又必ずやそれに成功して見せるといふ烈火の如き捲土重來の明るい希望を胸底に絕やすことがあつてはならぬ。人間はどこまでも反撥力を失つてはならぬ。

食糧問題は生產と消費との兩面から出來て居り、換言すれば農村と都市とが互に相呼應し、兩者合して茲に始めて一つの全きを得る譯である。隨て農民と都會民との氣持がピッタリ融け合つて居らねば食糧問題の萬全の解決は望み難い。例へば農民は都市からの援農作業に心から感謝し、都會民は又農村より送つて來た美事な收穫物に心から喜び合ふのは、即ち都鄙の接近で何よりも結構なことである。併し兩者の利害が反目する場合の發生も亦時として避け難い。例へば供出米について見れば、都會ではなるべく多くの供出を望み、農村ではなるべく多く己れの飯米に廻したいのが人情で、これが自然の有樣であらう。今夏開催の第五回中央協力會議の席上一議員から

農民に滿腹感を與へることが增產の途なる故、自家保有米の增額を認められたいとの率直な意見が出たのであつた。どこまでも農家は都會民の溫い心に感應し、愛國心を傾けて農事に身を捧げ、なるべく多くの餘剩米を自發的に作り出して都會の消費者を潤すことを惠念し、同時に又都會民としては、農村より餘りに多くの供出を望みそのために却つて農民の生產意慾をさまして翌年の增產にひゞが入り、結局都會も農村も自他共に不利益を受けるといつたやうな事態に陷ることを大いに警めねばならぬ。

家庭菜園の栽培收穫の成績は、札幌あたりでは素人經營としては上の部のやうだ。市民の何れもが、朝夕の餘暇を割いて營々として野菜の手入をするその熱心な態度は、單に一塊の薯、一本の葱を以て食膳を賑はすばかりが目的ではない。それと同時に僻遠の地に鍬把る農民の勞苦を思ひやり、又己れが庭先の作物の豐けき稔りを見るにつけ、天恩に感謝する心が自然にむくむくと湧き出るのである。

要するに食糧問題は人心の機微に觸れ易い問題であるからして、その取扱に對しては爲政者も學者も、都鄙住民の心理を充分に能く理解するの必要があらう。同時に長期戰を覺悟する以上、食糧問題の重要性は益々加增するものと見て、當局に於ても一層愼重に之が對策を講ぜねばならぬ。

最後に一言斷つて置きたいことは、今までこの論文の中で、敵國米英の例を所々に引用したことであるが、之は頑敵を打倒せんがためには、敵を知り味方を知るの必要を痛感したからに外ならぬ。敵は前の戰爭でも今の戰爭でも、前線銃後を問はずいつも戰爭には中々眞劍である。敵米英兩國は何れも前回の大戰に於て、食糧問題に關し苦い試練を經て居り、又與國獨逸でも今度は二度目のことゝて食糧政策に對しては萬事拔かりはない筈だ。われわれは食糧持久戰に於て萬が一にも敵國に引けを取るやうなことがあつたならば、それこそ悠久三千年の榮えある御國に對し面目次第もないではなからうか。今こそ緊褌一番を要する秋である。（昭一九・八・一四）